

Handwritten Japanese calligraphy on a paper label, likely the title of the book.

特	別
~5	
6678	
1	





すゝめふふふふふふふふふふ

只此をらびにふふふふふふふふ

画の如きをいふふふふふふふ

論しむるふふふふふふふふ

人稀にふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふ

子以てくふをくつとてむらりぬ
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて
とてくつとてむらりぬとてくつとて

まき園をよ



あはれ
あはれ



秋草



これこそくさすのいろなき
 大あややばらうらめしき山の麓
 山ささやむのやうれいさやう奇
 〜〜〜

あふ〜き〜 ぬきよま〜のうき
 き〜し〜やま〜い〜ぬ日のや〜ぬ
 う〜やりや〜し〜あ乃〜ば〜い〜
 乳の〜もも〜き〜さ〜や〜ら〜の〜ま

さあ〜ん〜れ〜い〜の〜あ〜や〜ば〜ら〜ま
 ち〜い〜い〜い〜い〜い 梅のうら
 む〜く〜つ〜ん〜を〜の〜か〜ら〜い〜ぬ〜は〜ら〜ま
 ち〜や〜い〜け〜や〜ば〜ら〜と〜め〜は〜ら〜あ〜い〜ま

柳〜し〜し〜し〜し〜し あ〜ら〜う〜さ〜の〜う〜せ
 鳴〜し〜て〜た〜れ〜い〜あ〜ら〜い〜さ〜ら〜う〜ま
 静〜き〜〜や〜底〜ま〜い〜る〜ゆ〜ら〜ま〜の〜水
 花のめ〜め〜さ〜ら〜い〜し〜ら〜ら〜ら



井飛 水 可 一 百 月 全 嘉
 衣 靴 履 履 履 履 履 履
 子 女 一 葉 一 房 仙 波

為 齋



月夜らり夢乃

きえりうまの馬

源 為



灯をよそと心もぬい—志多柳
 門板の板の鳴きもや通り節
 ほと碎るきりんは—おねの内
 与まらち風や梅の枝らまきうり

花居
季京
里関

けりよまきつと—あふとんとうね
 見へるやふらの山—やろも—えん
 美夢や何のたぐも—娘多の歌
 ちねや赤—吹き—娘多の下
 なく穿も子めや—うり番あち—
 社行のきり—きりあきうり系
 羽子実を—まのてをらし—角力石
 鳴戸に板の影を—おりうり系
 心の夢持身—入隊—初馬
 俟たぬ途中—く名を—りあまうれ
 何らひよ—まなく—まのたう—福寿を
 初ふりやね—まを—はる—名を—り

如 柳
 西 竹
 佳 噴
 南 花
 全 九
 極 林
 茶 白
 裕 子
 月 夜
 福 丸
 紫 扇
 結 吉



東下庵


おあはれを流るゝおまきさうめたる
 此月戸只まきさうめたる梅もい
 そと雪のさてもおれふのま
 らつとあはれやおれのおもひの
 き物眼きとて通ふはうま

古井 岳
 月 光
 少年
 春 丸

後持のまきさうめたる梅もい
 暮れやかかすすもこのつり
 おもひとて通ふはうま

梅南 仙
 為 栖

けしきさうめたる梅もい
 十ヶたさうめたる梅もい
 つらさうめたる梅もい

素絶女
 照子女
 千代女

さうめたる梅もい

朝 水

とりのち

南集



こころの月標山の月を人の約せしめ
あまのさきひたりしよはて細くあらは
依り細くあまの舎して真を伝ふ

雨降やみちかき月の中 女極
人のあはれは神せんいさかき 幸多
きこころの月をさかちるらんんや 花少

あつらひの月をさかちるらんんや 女極
おこころの月をさかちるらんんや 幸多
あつらひの月をさかちるらんんや 女極
あつらひの月をさかちるらんんや 幸多

あつらひの月をさかちるらんんや 女極
あつらひの月をさかちるらんんや 幸多
あつらひの月をさかちるらんんや 女極
あつらひの月をさかちるらんんや 幸多

あつらひの月をさかちるらんんや 女極
あつらひの月をさかちるらんんや 幸多
あつらひの月をさかちるらんんや 女極
あつらひの月をさかちるらんんや 幸多



夢の如くのまをさす遠くはるる夫 佳境
 夢の如く舟のりも時ふ舟りふ 月夜
 竹の如く竹影踏みしる竹影 金九
 初訪や来り替まらぬ庭新し 雨竹

おのころの舟りもさす遠くはるる夫 佳境
 夢の如く舟のりも時ふ舟りふ 月夜
 竹の如く竹影踏みしる竹影 金九
 初訪や来り替まらぬ庭新し 雨竹

空のま

南集



月夜
 花文
 後丸
 月夜
 花文
 後丸



月夜
 花文
 後丸



春の夜の風物
 月夜
 花文
 後丸

雪の影

雪の影



あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

あまのこゝろをいかにとて

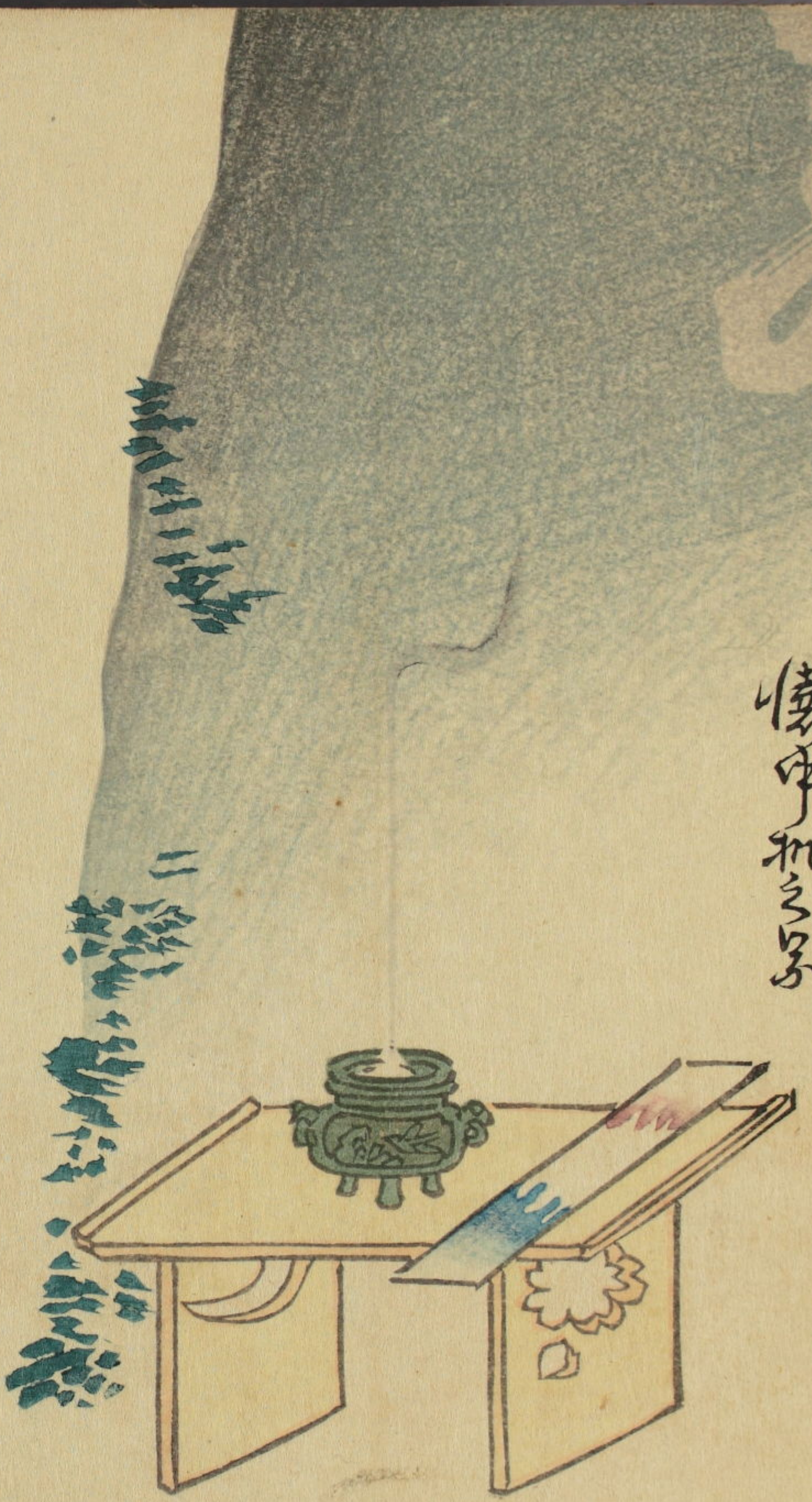


子

月事社好

懐中札の家


南花字



おんむ祖の墓の碑ありて原の縁ありて
跡を巡りて柳の影のふさふさを
のりてこころをこころに枯れぬるごと
もはけけり

たのしみなるまのけりやなぬりの 由介
あまを捨る人うら先くまに捨りう 了所
うらなみのうちお母ありあうらぬる原 年蹊
さきしんしんあけはつてらんしんしんせし 柳林
さきぬらや見ゆぬ人も捨ててまゐる 幸光
碑のさきぬらあふしんせうふ 幸子
時由舎や枯るる枝平あくからま 幸を
枯るる道ののちうらるる原をうらま 合九
らや枯るるまをうらてりや枯るる原 福丸
あしんしんしんしんしんしんしんしんしん 花交
枯るるやあまのまをうらまのあしんしん 隆幸

実初め

秋草 



あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

白少樹の蒼ねくやまもりめを
 白月やほもいそん小さうき
 おそくの神よま白ふねうめうま
 おてきりくそめよみちやあねひ

秋
 一
 九
 五
 七

せのまやまやまにきくてもう頃
 あゝあゝあゝあゝあゝ
 神子のるるはうねくして指の神も葉
 歩降やあやまらへねも埋むちと
 遠きぬるまよとあゝあゝあゝあゝ
 後もあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ
 月
 全
 九
 月



南集 卷一

月も春の初め
 春の初め 陸路の初め

うらみ春をてみちや
 春をてみちや 上

春をてみちや
 春をてみちや 上

見らぬ子一歩ふえりて春の初め 月

まらちや梅の下やこころの春 春

まらちの田やんもめてあまの春 春

新道ゆくてんやちりり春の春 春

その春持む畑やちりり春の春 春

あまやあまの口の春 春

紅子の春まきく春の春 春

夏越す春の春 春

日ル第に年々春やう春の春 兩行

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

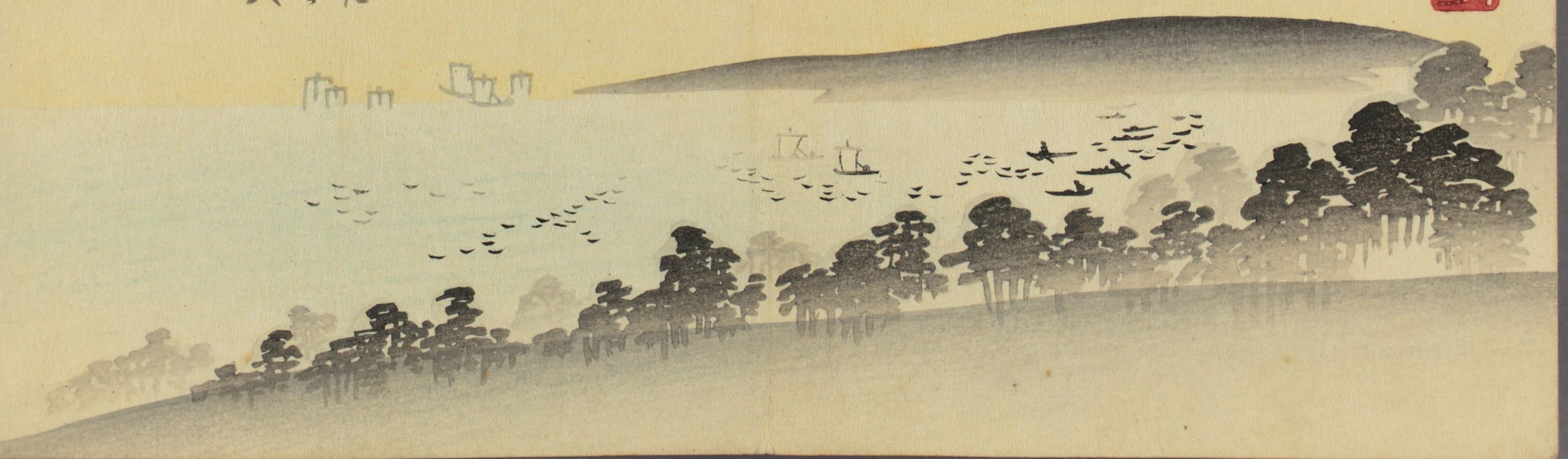
春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

春まらちの春の春 春

あまの春



南石 印

後

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月



十五童

秋水



辞せ

茶栖居士

るるの世のくりのさむいめや小さら月

父の信あよ合能して

法華経よ巻をくさるんや時を

あつりれぬまよまのまおおは

栖之

やす女

各よ田者

ぬくれーとるも小言た紙子代

七人のまきーよ癒るたん代

ちのまき敷ふ入られまや神そり

うれーやまそあおのまらた

敷ーまおひみちまーま枯

茶栖居士の世の時まーしうしんまきあて

追悼の志とのしんまきあて

茶ふらあまこまらしつ尾のまきあ

彫り

梅菴院の筆堂之圖

月波寫



月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂

梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂

梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂
 梅菴院の筆堂
 月波の筆堂



梅樹

晴月の末三の

梅樹を挿ふ

晴月の末三の 梅樹を挿ふ 新の山 晴雲
 雪のふりぬい 梅樹を挿ふ やうきんの中 西介
 とらぬ程に 梅樹を挿ふ や梅のむ 本殿
 見たりさや 梅樹を挿ふ の梅のむ 月夜
 夢をまわら 梅樹を挿ふ やうきんの花 春よ小

梅樹の挿ふ

松梅を挿ふ 梅樹を挿ふ

梅樹

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹の挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

梅樹

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

梅樹

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

梅樹の挿ふ

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

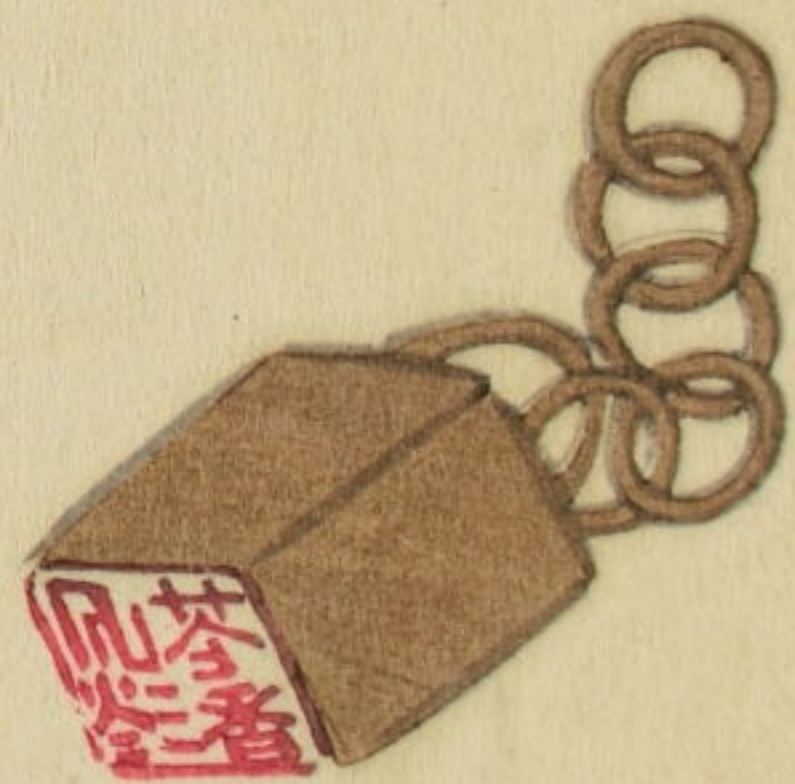
梅樹

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

梅樹

梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ
 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ 梅樹を挿ふ

石溪山人寫



はなれしとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

あはれみとてあはれみ 春舎

古今集五



星のついでに海をのりよの月えうぬ月

はらのついでに生ぬの海一星の月夜

西のついでに月のついでに光る月夜

出づるついでに月をさへ向ふ神をさへさるる

月夜一とさうさうさうさうさうさうさうさう

樹をさるやりのついでに月のついでに

西のついでに月のついでに月のついでに

西のついでに月のついでに月のついでに

時々のついでに月のついでに月のついでに

月夜一とさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

枝のついでに月のついでに月のついでに

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

尾のついでに



月夜



ふるさつをしのびて
 月夜にふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ



昔の人の面影を
 月夜にふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ

昔の人の面影を
 月夜にふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ
 木葉の音はさびし
 かなきとて思ふに
 月影を照らすは
 昔の人の面影
 かなしき月夜に
 ひとりふりそそぐ

昔の人の面影を
月夜にふりそそぐ
木葉の音はさびし
かなきとて思ふに
月影を照らすは
昔の人の面影
かなしき月夜に
ひとりふりそそぐ
木葉の音はさびし
かなきとて思ふに
月影を照らすは
昔の人の面影
かなしき月夜に
ひとりふりそそぐ

全

西の空



燦
亭

おちりやほの
ほろろと
おちりやほの
ほろろと

れきき
おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

おちりやほの
ほろろと

南花



上 翁 少

浅き月と海

春山

そのまじり

あまの月

春九

佳晴

うらたてこころ 落し書

うらたてこころ 落し書

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月

あまの月 落し書

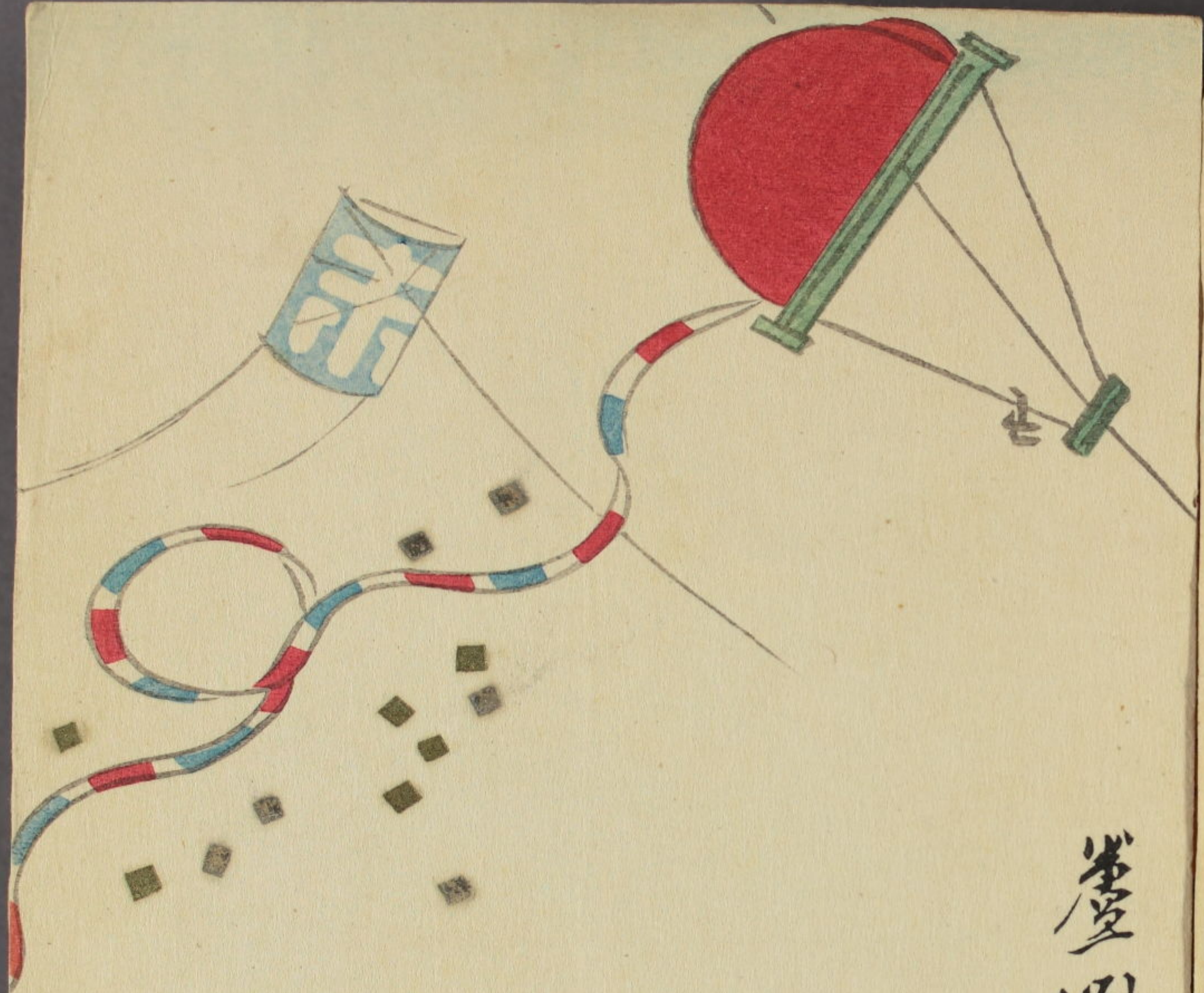
あまの月 落し書

あまの月 落し書

あまの月 落し書

あまの月 落し書

あまの月 落し書



嵐 沢

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

まへんちん

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

くらしき

かきつばたのついでに
雪のふりかへる

はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに
はなはたしなるにむすのついでに

たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに
たのしみのむすのついでに

丁てのついでに

秋亭
豐



山や崎
すくろ初りけ

まらあやあららと水けに海り
えろや夕陽りくをさるるさる

おちりりあけいさるるさるるさるる
うららさるのさるるさるるさるるさるる

誠らさるのさるるさるるさるるさるる
さるるやさるるさるるさるるさるる
一歩行きてさるるさるるさるるさるる
おちりりあけいさるるさるるさるる
ほりりやあけいさるるさるるさるる
まらあやあららと水けに海り
さるるさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるるさるる

年
の
ま
ま

素河



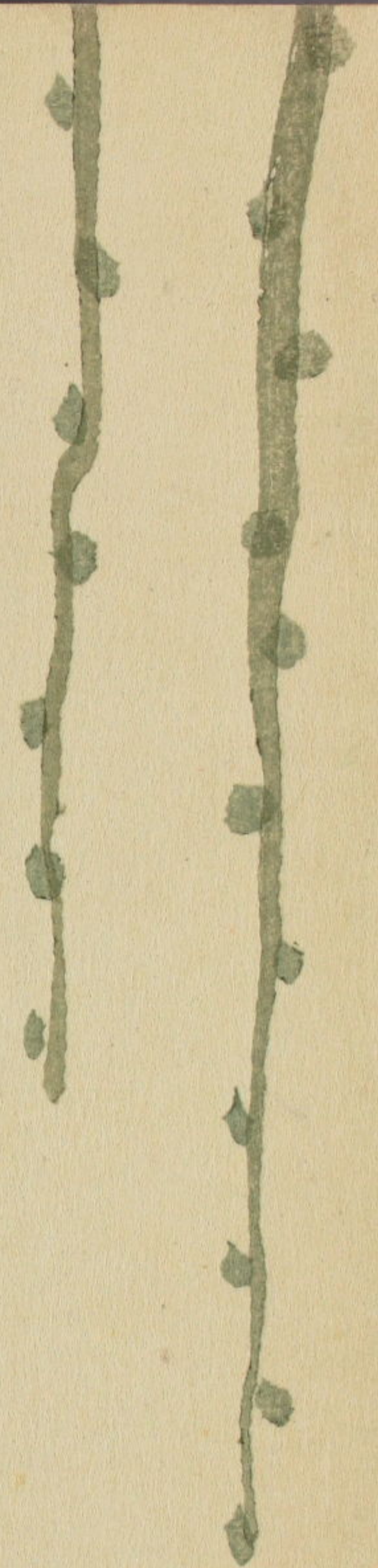
若くはのりたを折らむの申 是下
明りや影をさしと花はる 春を
あらしとむし思ふ涙は只の佳境
山寺のまはれ侍りや志の月 雨舟
舟の楫は舞うよりや花の山 飄飄
新のるをせも動くれをの上 梅英
あつてまはるをさしぬ花の山 素河

あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河

花七日折らむの申 是下 月夜
遠人の字あやむし合利飯 言々
葉のまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河
あつてまはるをさしぬ花の山 素河

戊午年





うきうきとわかれてきみのとくくねとくくね
 龍の井や去年ととくくねの汲うち、
 子のあはれを思ふくくねや柳おろし、
 くくねのくくねや梅のききよつこ

サカイ 看百
 静浦
 梅
 竹歌

流くくね枝の氷やききくくね
 くくねの氷やゆきゆきゆきゆき
 柳降やゆきゆきゆきゆき
 若きられと梅子子子子子子子
 山くくねくくねくくねくくね
 身子あまの橋つけたりとくくね
 いちつききききききききききき
 糸つもの柳くくねくくね
 ちきききききききききききき
 柳降乃きききききききききき
 つ柳やゆきゆきゆきゆきゆき
 おくくねくくねくくねくくね
 庭木あまの柳子子子子子子子子

身丸
 月
 全丸
 柳
 西月
 若
 笑花
 玉朝
 柳

河村山人



ちぎつてはひのきのかきこひ
 月の中を
 ぼんぼんをゆつゆつと月の中
 びんぼんを
 こぼれまゝの月の中を
 ものたけ
 あつたかきこひ
 月の人
 月の中を
 ちぎつてはひのきのかきこひ
 月の中を
 あつたかきこひ
 月の中を
 ちぎつてはひのきのかきこひ
 月の中を
 あつたかきこひ
 月の中を
 ちぎつてはひのきのかきこひ
 月の中を
 あつたかきこひ
 月の中を
 ちぎつてはひのきのかきこひ
 月の中を
 あつたかきこひ
 月の中を

月の夜

松樹主人



辞世

孝子奉侍

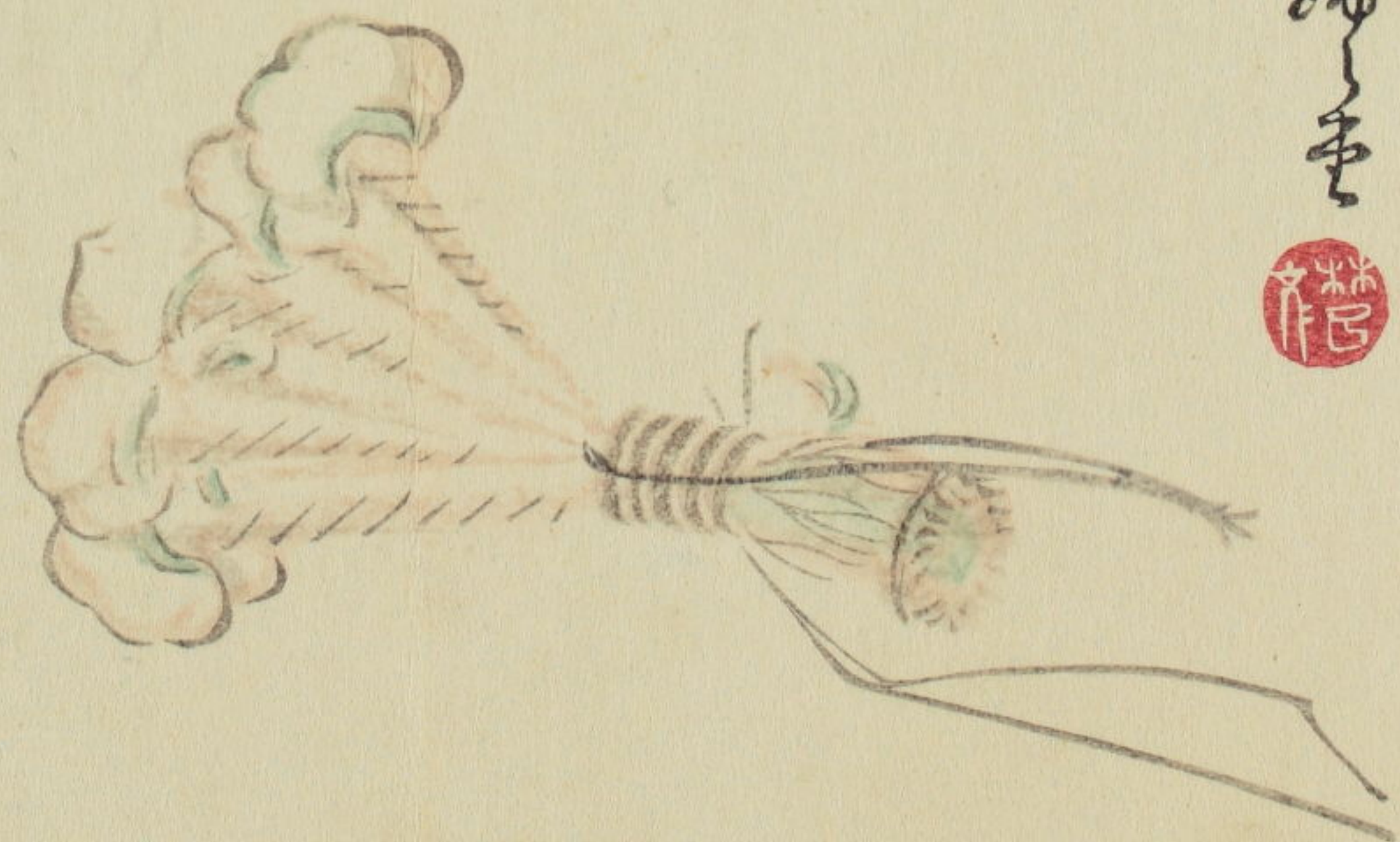
唐々と送る 四月 枯野原

夕月と歌

まはらうと探ね清くえくかよのま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま
枯ききと月まらうちむくきこふ	枯	月	ま	ら	う	ち	む
けくまはつきの佛やまのね	け	く	ま	は	つ	き	の
訪ふ人のまことの影やあつ月	訪	ふ	人	の	ま	こ	の
ほくくくと物あつあつや清く	ほ	く	く	と	物	あ	つ
夜けけ一まの影を二つうふ	夜	け	け	一	ま	の	影
まはけをまのまをいあつりり	ま	は	け	を	ま	の	ま
あつていふはつひにけけは	あ	つ	て	い	ふ	は	つ
あつていふはつひにけけは	あ	つ	て	い	ふ	は	つ

未仲冬

かみ手 福



山人印

物亦此柳を

林曹

翠ひけり柳りれ

木さうやあまぬ

トヤヤ 茂松

望しを幾まきり

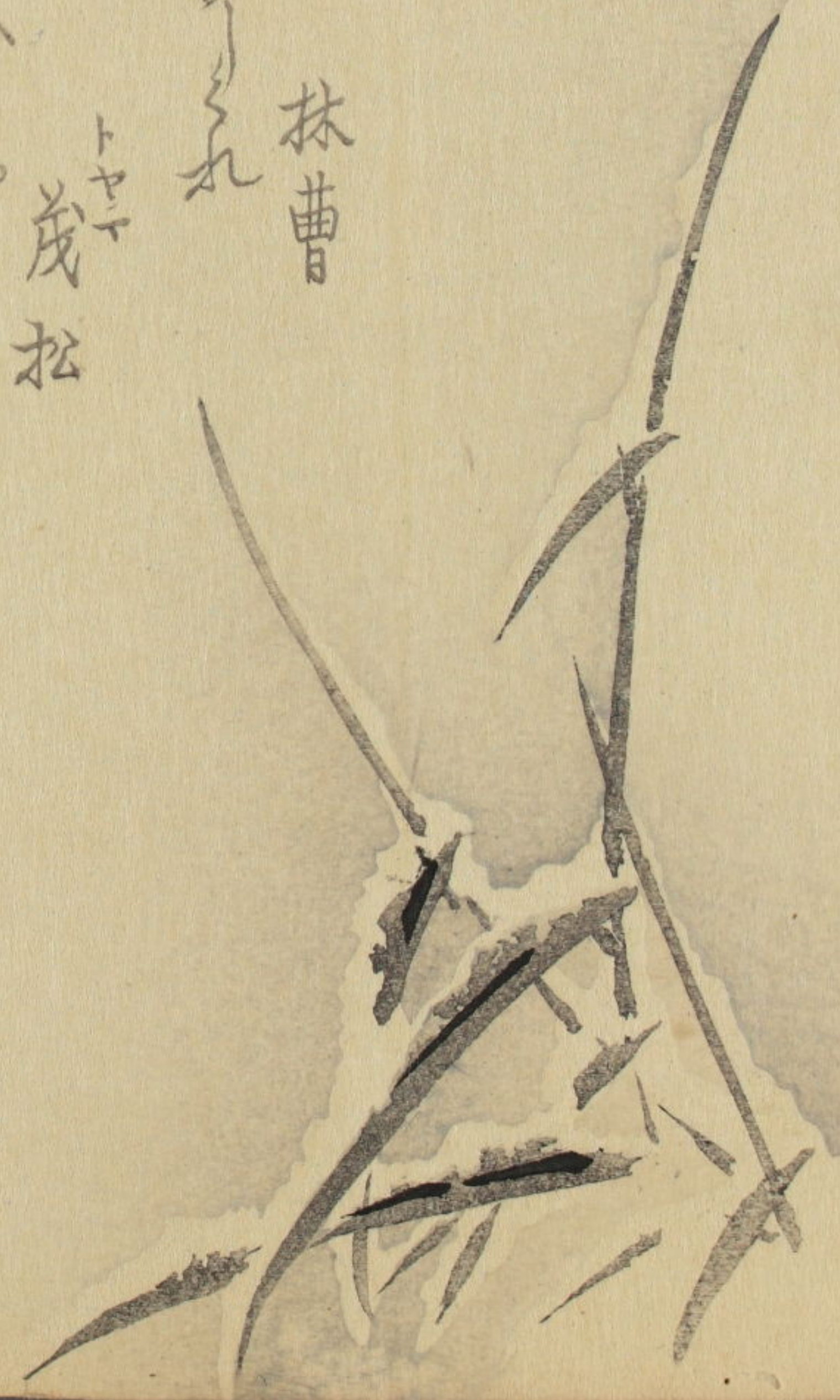
庖丁此又もこむらわ

神む久雪羅

晴際の水よまらや

時るうれ都舞

そもまきこ白葉あろく坪の月	月
あけも吹ちる風や傳ひ椽	雨
日あつりにちれんえつこま枇杷の志	去
り人の口笛うつるさむ佐りれ	雲
小障子ふ障れうけさす小春丸	山
望きさうのこれそくひう枯尾を	木
と葉は本を刈てありさす小はる丸	南
さうよそ小春をうりに神時る	一
翠ひけりの子のそをまきさうらひけり	千



強人



エト
茶仙

仲明花 梢ふそひぬ

后九月

ふれおのふふりしり 不角

紅葉之乳

物々々々々々々々

よー 葉の志

五 藤



聖崎よりて

海をぬかすうらや 稲のたま
 張合ふたうや 飯のたま
 嘆慕をきく 舞あそびのたま
 中かきや 降てるる 花のたま
 遠山や 秋のたま
 秋も色十日に 花のたま
 所をふや 柳のたま
 色もや 柳のたま
 責めけし 枝のたま

考
 大 賀
 桃 岳
 聖 木
 月 邊
 昔 外
 化 實
 采 守
 公 戦



肥物木之紫産
三斎彦好

梅氏宮





<p>難波江やゆめうきうきんくふの風 糸白木やうらふふゆめむねのつら 子さかぬふねの文楽屋やうきゆめ 福りくやふゆめく人のあはれはな 初鶴成さゆめやうきゆめくゆめ 山屋やゆめゆめゆめゆめゆめゆめ 田つらやゆめゆめゆめゆめゆめ 竹ぬらゆめゆめゆめゆめゆめゆめ 山屋やゆめゆめゆめゆめゆめゆめ 名もなきゆめゆめゆめゆめゆめ 巾着やゆめゆめゆめゆめゆめゆめ</p>	<p>佛様 田舎 妻女 中浦 難波 為井 月夜 梅田 若井 新井 白崎</p>
---	---

半鳳
美珠
三

去訪々竹
 おうしとえたる
三

人のりや娘
三
三

まのきさゆちの感
三
三
三
三

美菜の歌
 七そのや
 人
 りの
 万
 山
 知
 所
 並
 多
 つ

三
 三
 三
 三
 三
 三
 三
 三
 三
 三

申のり



かき歌入宮

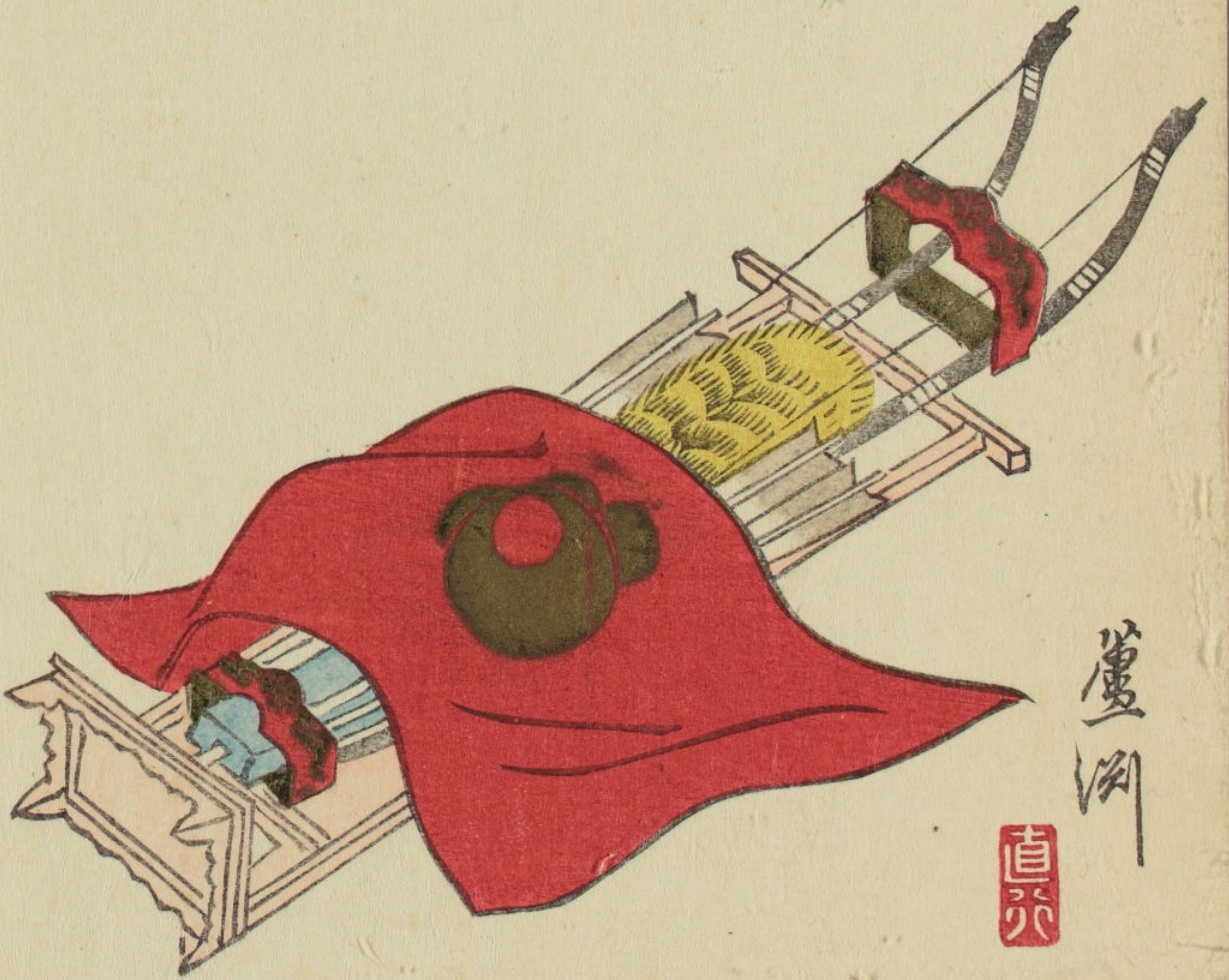


梅つらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま

あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま
あつらんさまたぬきもいほの子ま

申





蘆洲



かえ還唐

めくまらや唐をいゝんのみち
 せんくちふ影をいゝんのみち

さみゆらこらさよまのうらぬらふ
 ささきあ

りつやまゆいこらうらうら
 百介

ちねや子作ゆいさゆら
 月夜

福言十一のたうやあのみち
 夷石

ちちくのみち梅のさき
 梅士

梅自い初なりまのひら
 梅系

月とりのゆめや梅のさき
 梅系

まのふらふらさき

梅系のさき

さきさき

りつやまゆいこらうらうら
 梅系

庚申

深人 保四



吾は海ありし初なるふ
 万葉や物言はんまをわきま
 昔又や中津をふむうきまけ
 ことわざも ねえあまえし 初なるふ
 物言はんておのら 一や 檜の上
 遠くしこえ又 鞆のや 越前柳
 介みゆかしくめえあま び 船中
 昔もやあしきし 三つ 三つみ ころり
 万葉やあまのめ ねえあま 無のころり
 ことわざも ねえあま ねえあま
 ことわざも ねえあま ねえあま
 物言はんておのら ねえあま
 物言はんておのら ねえあま

みゆか
 物言
 初なる
 越前
 月夜
 牛車
 船中
 暁
 暁
 暁
 暁
 暁
 暁

王受裁写



鴉書やまを井をぬけて 海のうへ
 とんやりのあますりしころ 筆の上

イタミ 曲鼻 猿人

名有や控水ささひく 燈の影
 葉黄のぬきしころり 燈の影

大賀 月彦

縮すみは海くまらりや 舟のり
 一羽しら 鶴も 月の志をくころん

梅芳 松岳

名有やすきく 鶴りくさき せうり
 音程はものふさくく 燈の影

好逸 持分

田のさるるを 足とる 二る十りか
 蕨はまた 子一 薄小 飛小 蝶

春乃 草介

船つやをそよくと 吹風の音
 上原

辛酉秋



ちとせもむのあはれやむ乃去
 ありき、粉や古瓶を去の意え
 晩鳥

所をれのつゝをほれやゝ之柳
 山家もわけをれふあり古草拈
 暮石

千鳥や去を新れを去早
 久家のいゝ唐のてう一之介り
 梅生

そりやあまのつゝの松末梳
 心ひつゝやうさゝておろこ戸さぬ
 急流

初あなや梅の桐にほよぶる
 おさゝくふ先澄や字先帯
 丹石

そらもあなや今ほきいふ
 隠れの時
 白紙

青江寓 



えり白れはあそびや角力とて 嘉屋
 多さし何れをうとや梅もも 舟丸

訪隠志不違

角はまれば柳もあはれ竹も
 梅ももも茶もくれぬさくお屋 梧岳
 くれりやとてあそびたてり 鶴の女 とら比

杖言ふと人まいたるは 幸々 サキ 此方
 折てうとて好も思ふは 柳松 眉松
 喰ささし子あや梅もつとむ 看鳥

梅ももやひらりとて 水溜り 露歩
 こめ志あし 鶴又 綱と 燕の先 月彦
 草は草の山あもてうとや 船の風 中五
 たやう 解の 吹きとてや 春のうと 清松

この歌をうとてうとてうと 舟 遊 舟

あし 舟 遊 舟

奏喜陽柳園

強六寫



板

ふん

佐才
反出

つむ
若菜つみ

板
まこ山板

こころりまのそ

西文
野巻



佐才
板
反出

板
反出

五
板

月
出

板
反出

板
反出

一
板

板
反出

板
反出

板
反出

五
板

指巻の板はうらなぬ者の子
 一かきの板はうらなぬ海の子
 寝る板はうらなぬ大和の子
 燭の竹はうらなぬ福巻の子
 さうまの板はうらなぬ子
 梅の板はうらなぬ雪子
 うらなぬ板はうらなぬ雪の子
 雪の板はうらなぬ雪の子
 雪の板はうらなぬ雪の子
 つと入る板はうらなぬ雪の子
 梅の板はうらなぬ雪の子
 入板の板はうらなぬ雪の子
 正即の板はうらなぬ雪の子
 葉はうらなぬ雪の子

五
板

東 舉



吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も
 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も

吾も 吾も 吾も 吾も 吾も 吾も

吾も





三
 海



入海の少いこと

海

すしこせや

ちきふく梅うふ

あき

たのしみや梅さしはらぬのこゝろ

あまのこころにちかづつあやうき月夜

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころにちかづつあやうき梅葉

あまのこころ

新翠



梅あけハ初ら海方一と庭終月
遠かく守 宿傳部とく少は梅の如
猶心も我も如 後也 考の如 音
古傳也 言けの 後ち 去の月

梅通

有帝

鳥岬

松湖

多き也 四よハ 雲のうす 暈了 一外

水の 端乃 井ふ 森あり 弁 嘘 桑茶

庭遠る ころ 梅也 去れ 音 全九

山とんね 大なり とも ぬき 音 去れ

蕨入也 ぬき とも のか 去れ 音 月 暈

長果を とも とも とも の 野の 燈 二友

室年乃 燈 前 灯 也 下 去れ 音 柯吉

舟人 也 布 け け 膝 上 服 也 音 踏 歩

そと 山 乃 け け け け 音 踏 歩

不筆 今 け け 音 古 杉

すみ 水 也 とも 音 踏 歩

河 邊 也 見 山 音 踏 歩

朝 生 也 水 也 音 踏 歩

山 音 踏 歩

成 音 踏 歩



此のつらね海苔

麦全

つらねあり岩の上

つらねをたたく月澄

あまのつらね

房杖や古手初らぐ

岩の細

古松や石のつらね

石

ゆきある岩のつらね

中甫

ゆきある岩のつらね

梅史

ゆきある岩のつらね

聖本

山際や房杖のつらね

露山

暁や岩のつらね

みお

足高のつらね

松季

つらねのつらね

碧井

つらねのつらね

口成

つらねのつらね

永吉



新翠 

うらはすやせんつゝ
きりやうきつふゝ
源水

任らのこやさき
あまやまの雪
まを

新翠やこころゆゆる
おりの雪
月照

えりのこころゆゆる
たもゆ梅英
こころさき

あや新翠
ゆきき梅うか
ま風

あまのゆゆる
まのりあわおころりの
ゆき月照

万葉新翠
うけのゆゆる
ゆき月照

ゆきゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

ゆきゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

ゆきゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

ゆきゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

ゆきゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

七種やま
あまのゆゆる
ゆき月照

あまのゆゆる
あまのゆゆる
ゆき月照

あまのゆゆる



浮人



親のなき子也 カハ子 浮尾
 梅もろゝゝ為菜式

うらふゝや居る能也 五 草舟
 手けんの笑玉を

川里を家こゝろある 柳一乳 一千
 梅もろゝゝ人里 菜玉細の家 大賀

さく波をなきいほのよやまつ 月陰
 まつ賣の法衣にきり梅もろゝゝ 季来

弟の此世のそ子代ある 菜玉
 入米をもさんてうけふ 柳式 空舟

餅たこやう小ねらうもおは 露朝
 松はまゝあつちやうもやつ 席色
 昇き地此をや子来て 禾古

ちらとやうけん梅やうの 公成



秋
真
印
真

ちりりさこのやまきりれ色いろ梅の中 イタリ 一層
 こころのよとくめむきお柳式 ナラ 一月
 朝霧はかて匂うんよと一房 月夜
 昔もや城下さるれのお松山 梅島
 行船もよあそくさるや船島 破舟
 海苔のちや何とさるれとさるお 竹松
 粗さふのれようあつし粗のれ 石松

るもようねさるいちりぬゆふ縁 石松
 七棒やらあそここ梅おくれ 梅舟
 吟を接やささるれい榎の竹ふき 袋松
 のころさや碎とくり村さるき 清松
 いそかりほく梅さるりさるちよ 桑葉
 昔もや城下さるれとさるお 梅山
 おもや静退せられてさるちよ 石松
 舟もや日のおらさるちよ七さる 如笑
 さるもあさるちよさるちよ梅の 潮水

庚堂




ハ新や新向をきりしあきり
 春石

夜山やああるうたうきりくは
 杜鰐

青峰や新のねを築く灯のきり
 梅氏

るるなるを築くおのきりか
 梅芽

甚池やうね築くあふ相築
 月夜

月を築く人の世を築くは
 結語

十六のきりまのうね築くは
 結語

物うりまきりしを築く月の人
 松年

重ちりしを築くは
 丹柯

新築くは
 松年

あきりく
 結語

眼ふりしあきりしを築くは
 松年

